

第4節 新宿区における高齢者等の状況

1. 人口の推移

平成27（2015）年に実施した国勢調査に基づく人口推計によれば、高齢者人口、特に75歳以上の人口の割合は、今後大きく上昇していきます。

高齢者人口（平成27年に6.7万人）は、平成37年まではほぼ横ばい状態ですが、その後増加に転じ、平成47年には7.2万人に達します。平成72年には9.5万人となり、平成27年の約1.4倍に増加する見通しです。総人口に占める割合（平成27年に20.1%）は、平成37年までは20%弱で推移しますが、平成47年には約21%に上昇し、平成72年には約28%となり、新宿区の人口の4分の1以上を高齢者が占める見通しとなっています。

75歳以上人口（平成27年に3.3万人）については、平成37年の3.9万人まで増加を続け、その後しばらく横ばい状態が続くものの、平成47年以降は増加に転じ、平成72年には5.6万人になる見通しです。75歳以上人口の総人口に占める割合（平成27年9.8%）は、平成52年には約11%に上昇し、平成72年には約16%と人口の6分の1以上を占める見通しです。

また、単身高齢者の著しい増加も見通されています。単身高齢者は、日常生活での手助けや介護を要するときに家族の支援を得ることが難しく、また、孤立化する傾向にあり、今後、行政サービスをはじめ地域社会全体での支援の必要性がさらに増してくることが想定されます。